



2011びわ湖大学駅伝

鮮烈！ 滋賀大 初陣を飾る

滋賀大学陸上競技部新聞

びわ湖大学駅伝
= 特集 =



経済学部と教育学部の中長距離陣からなる駅伝チームは、十一月十九日、近江路を走り抜ける「2011びわ湖大学駅伝 兼 第73回関西学生対抗駅伝競走大会」に出場しました。朝8時に号砲とともに長浜市西浅井支所を走り出した我が滋賀大チームは、大津市膳所城跡公園までの総距離83・6kmを8名のランナーが懸命に襷をつなぐと激走し、見事に初陣を飾りました。

(写真はスタートのゲートを飛び出す選手の一団。滋賀大一区の小西雄大は左端)

朝から雨は容赦なく降り続け、叩きつける激しい雨で視界も霞むほどの悪天候の中、夢の本戦で強豪校と競り合える喜びに燃える我が滋賀大は、沿道の県民や部員、OBの声援を背に、どの区間においても怯むことなく激走し、4時間34分18秒でゴールしました。総合183位、関西学生対抗で16位となり、鮮烈な印象を残しました。この戦いの詳細を報告し、皆様の御支援への御礼とさせていただきます。

残せた飛躍への一歩

主将が語る大会の足跡

初めてのびわ湖大学駅伝は、予選会と同順位(関西16位)となり、強豪校のレベルを実感する大会でありましたが、結果以上にこの大会にこのメンバーで出場できたことに意味があると思っています。数年前までは予選会出場もままならなかったと聞きます。しかしOBの方々が残してきてくださった陸上部の歴史を引き継ぎ、本戦に出場できるまでになりました。これからはここで戦うことを目標にしていきたいと思えます。

教育学部主将 原 孝彰

「びわ湖の予選会突破は通過点でありゴールではない」という意識で本戦を目指し、同時に「本戦でこそ」戦えるよう、予選会の前後を通じて部全体として雰囲気作りを努めてきました。今後はびわ湖大学駅伝本戦出場を「常連」となり、本戦で上位を目指すことを念頭に置くと共に、陸上競技部全体としての総合力強化が次のテーマです。

駅伝主将 水谷太紀

私は駅伝主将を担いました。本戦を見据え試走は一度だけの予定でしたが、選手の強い要望で二度実施しました。「もう一度走っておきたい。」

と熱く頼んできた選手の迫力が印象に残っています。襷を繋ぐことはできませんでしたが、下回生が大半を占めるチームなので、来年度も経験を基に力走してくれると確信しています。

本戦出場支援基金の御礼と結果のご報告について

経済学部顧問 宮本 孝

この度は、本学が「びわ湖大学駅伝」に出場するに当たり、多大なご支援を賜り誠にありがとうございました。OBの皆様方と大学関係者のご協力により無事に終了しましたことをご報告するとともに、心から感謝を申し上げます。さて、結果につきましては、22チーム中18位でしたが、来年は今回の経験を生かし、シードを目標に頑張りたいと思っていますので、今後ともご指導ご支援の程、宜しくお願い申し上げます。

教育学部顧問 白井重樹

念願のびわ湖大学駅伝本戦出場という歴史的快挙に、OBとしてまた顧問として立ち会えた喜びを感じています。夢の舞台を疾走する誇らしげな選手が眩いばかりです。この感動を糧に、更なる飛躍を目指していけますのも、OBの皆様と大学の温かい御支援あつてのことです。心より厚く御礼申し上げます。

コーチ 江崎和希

二年前、出場はかなり厳しいと思っていました。しかし、学生達の「びわ湖を走りたい」という気持ちや、みごと出場権を勝ち取りました。当日、大雨の中、選手は力走しましたが、「たすき」が途切れてしまう結果でした。この悔しい思いを胸に来年は全員の力を上げて臨みたいと思います。ご支援頂いた滋賀大関係者に感謝申し上げます。

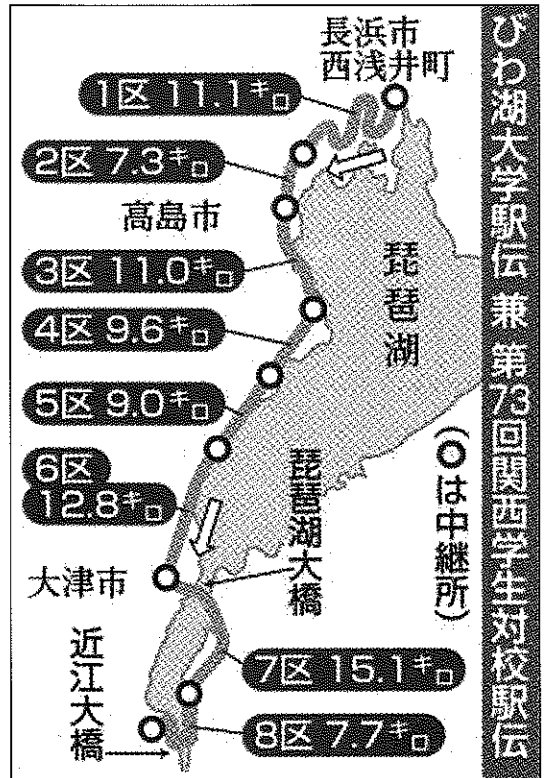
一騎当千

昭和12年に始まった関西学生対抗駅伝は、コースを平安神宮、神戸、琵琶湖一周(昭和33年、36年)、奈良、西京極、福知山、近江八幡市周回(昭和48年、58年)、淀川河川公園等を経て、昭和62年から丹後半島に移して、平成17年の第67回大会に滋賀・琵琶湖西岸に移し、「びわ湖大学駅伝」として新たなスタートが切られました。参加校も東海、中国四国、九州の招待校が加わり、まさに「学生駅伝西日本」を決定する学生の祭典です。

今回の本戦には、未曾有の大震災が襲った東北を元気づけようと、東北学連連抜チームも招待され、全22チームが競いました。関西学連からは、前回10位までに入ったシード校と予選会で8位までに入賞した大学が出場しました。予選会は十月一日に大津市皇子山陸上競技場で開催され、本戦出場権8枠をかけて18校がしのぎを削りました。各校8、10名の選手が六組に分かれて1万メートルを走り、上位8名の合計タイムで争いました。十月の予選会では、関西長距離全体の底上げが顕著に見られた中、滋賀大学は4時間20分14秒89で6位入賞を果たし、本戦への出場権を獲得していました。本戦には沿道に17万人もの方が駆けつけてくれるまでになっていますが、主催する関西学生陸上競技連盟、滋賀県、読売新聞社は力を合わせながら、箱根駅伝と肩を並べ、「東の箱根、西のびわ湖」と称される大会にすることを目指しています。そのため、コースを拡大して一周コースとし、二日間わたるびわ湖一周大学駅伝を目標としています。走力の一層の向上が求められています。

順位	大学	記録	順位	大学	記録
1	京都産業大	4:16:17	12	愛知工業大	4:28:39
2	第一工業大	4:18:09	13	大阪体育大	4:31:16
3	立命館大	4:18:45	14	甲南大	4:31:34
4	関西学院大	4:18:51	15	びわスポ大	4:32:01
5	大阪経済大	4:21:13	16	神戸大	4:32:51
6	奈良産業大	4:21:29	17	近畿大	4:33:22
7	龍谷大	4:22:21	18	滋賀大	4:34:18
8	京都大	4:24:19	19	大阪教育大	4:37:31
9	関西大	4:24:25	20	環太平洋大	4:37:47
10	同志社大	4:25:16	21	兵庫県立大	4:38:12
11	佛教大	4:26:49	open	東北学連選抜	4:23:56

区間	距離	滋賀大学の選手(回生)	区間		総合	
			記録	順位	記録	順位(open除)
第1区	11.1km	小西 雄大(2)	34:42	13	34:42	12
第2区	7.3km	山本 賢悟(2)	23:59	21	58:41	19
第3区	11.0km	岩田 一希(4)	36:42	21	1:35:23	20
第4区	9.6km	西島 伸樹(1)	31:26	17	2:06:49	19
第5区	9.0km	於久田達希(1)	30:43	20	2:37:32	19
第6区	12.8km	後藤 駿弥(1)	42:22	19	3:19:54	19
第7区	15.1km	中島 弘貴(4)	48:26	15	4:08:20	18
第8区	7.7km	堀 大樹(1)	25:58	19	4:34:18	18



自分は滋賀大学に入学し、一年目でびわ湖大学駅伝という関西で最も大きな駅伝大会に出場することができ、本当に幸せだと思いま



四区 西島伸樹

苦しいレースになりましたが、沿道の方を含め、多くの方々の声援を受けて自分らしい粘り強い走りことができました。四回生として最後に大舞台を走ることができて、本当に感謝しています。



三区 岩田一希

チーム一丸となって勝ち得た初の予選会突破の喜びを、本戦で通用しなかった悔しさを忘れることなく、さらに陸上競技に楽しく真剣に打ち込み、来年は自分がチームの中心となってリベンジを果たします。



二区 山本賢悟

初めてのびわ湖駅伝の一区ということで、たいへん重圧はありましたが、その重圧を走る喜びに変えて走ることができました。たくさんさんの御支援・応援ありがとうございました。

戦い終えて(選手の声)

線上げでしたが、少しでも順位を上げる思いで食らいつきました。途中離れてしまいましたが、皆さんの応援のお陰で気持ちを切らさ



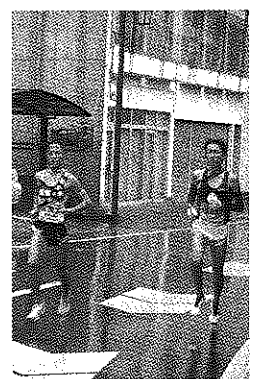
七区 中島弘貴

関西のトップ選手とどこまで勝負できるかを意識した駅伝でしたが、個人・チームともにまだまだ力の差を感じました。来年滋賀大がより上位で戦えるように鍛錬します。ご支援本当にありがとうございました。



六区 後藤駿弥

びわ湖駅伝に出場するに当たって、標を繫ぐという目標で挑みました。結果としては自分のところで線上げになり悔しかったですが、この大舞台で走ることができ、感謝の気持ちで一杯です。有難うございました。



五区 於久田達希

来年からも毎年出場出来るように精進したいです。

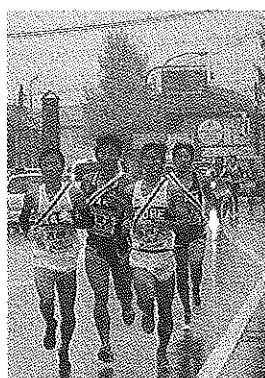
大学最後の年に、この大会にチームとして出れて誇らしいです。選手として出ることができなかつたですが、チームのために何ができるかを考えて臨みました。

一回生の頃から目指していた大会に、出場できてよかったですが、私自身は選手ではありませんが、補欠としてチームの底上げに貢献できていたら幸いです。

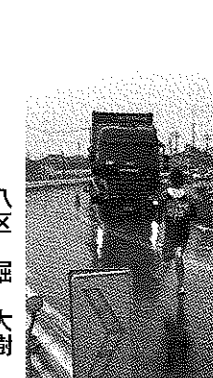
四年目にして予選会を突破し、びわ湖を滋賀大が走れることが決まった瞬間、本当に感動しました。まわりの仲間と滋賀大を応援して下さった方に心から感謝しています。

駅伝メンバーの思い

大岡宗平



持ち前の積極的なレースで、皆が待つゴールまで力を出し切ったのですが、やはり自分の弱さを実感しました。来年は予選会突破だけでなく、本戦で強豪校と競り合えることを意識し、日々頑張りま



ず走れました！最後のびわ湖で悔いはありません！

石川洋平

八区 堀大樹

野村俊貴
 今年はメンバーに入れませんでした。来年はチームの力になれるよう、これから来年に向けて練習していきたい。

乾 文彦
 今年は選手として出場できませんでしたが、先輩が抜けてしまわれ分を、メンバー全員で埋めて、チーム一丸となって今よりさらに強い滋賀大学にして出場したいです。

水野 鋭
 今年は補欠だった。来年のびわ湖駅伝ではチームに少しでも貢献できるように、自分にできることを探してメンバー入りを目指したい。

笠木良平
 今回、補欠として大会を終え、このような舞台で走りたい気持ち。自分はまだ力不足ですが、今後の練習で差を埋められるように頑張っていきたいです。

全区間戦いの詳細

各中継所で応援を担当した部員から、写真をつけて当日の戦況を報告します。

◆第一中継所

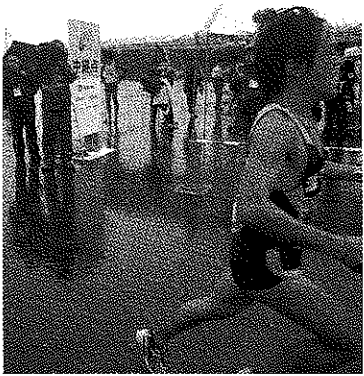
雨が降る中、二区を走る山本は、慌てたり舞い上がったりすることなく、淡々とアップをしていた。また、付添や応援の部員とも笑顔で話すなど、リラックスしている様子だった。一区のトップの選手



が中継所に近づき、順に大学名が呼ばれ始めると、中継所の空気が各大学の二区を走る選手の表情が一変して引き締まった。

◆第二中継所
 三区を走る岩田は、中継所に着いた時は表情が固く緊張している様子が見えた。しかし周りや談笑するなど、時間が経つにつれ表情は和らぎ、リラックスしていた。雨が降る中、アップを開始する。その姿は真剣そのもので、レースに集中していた。周りを気にせず、マイペースで準備を進めていた。召集を受け、いよいよ出番が近づいて来た。棒の受け渡しの直前はさすがに緊張を隠せない様子だったが、良い緊張状態の中にあるようだった。滋賀大学が呼名され、二区の山本が中継所に入ってきた。棒を受け取ると、力強い走りですぐに中継所を後にした。

他大学の棒が二区に渡されていく中、滋賀大学は13番目に呼ばれた。一区11.1kmを走ってきた小西は、後半に踏ん張りを見せ、中継所が見えたとラストスパートで3校程抜いて二区山本に棒を渡した。走り終えた小西は「楽しかった」と何度も話し、楽しくかつ充実したレースができたことが窺えるとてもいい表情をしていた。



◆第三中継所

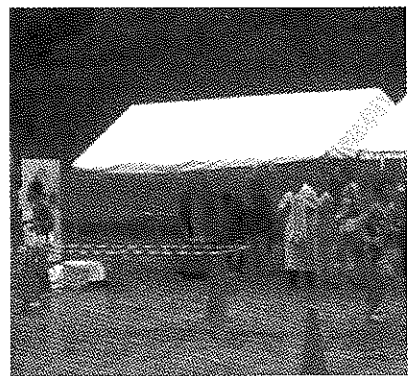
第三中継所の安曇川付近は、時折激しく叩きつける大雨が降り続いていた。気温も低く、風に煽ら

れる幟を支えながら、走りづらいだろうなと感じた。周りには何もなく、バスも一日数本の場所だが、近隣の方々も雨の中応援に来て下さっていた。

◆第四中継所
 第四中継所は最初に線上スタートが行われる中継所で、とても緊張感に包まれていた。強い雨が一層ピリピリとした空気を際立たせていた。この悪天候の中、狭いスペースで待機している五区の於久田に声をかけると少し緊張気味に見えるが、同時にやっつやという気が伝わってきた。先頭のランナーが棒を繋ぐのと同時にタイム差を計測し始めた。前の中継所や途中地点からの情報では、滋賀大の棒が繋がるかは際どかった。しかし、四区西島は一回生ながらこの責任ある場面を走り切り、見事残り3秒で棒を繋いだ。走り終わった西島は疲労の色を見せつつも、プレッシャーから解放されほっとした表情で、駅伝を心底楽しんでるようだ。



◆第五中継所
 第五中継所では、六区一回生の後藤駿弥が冷たい雨の降る中、五区一回生於久田達希の到着を待っていた。於久田に棒が渡った時点で既にトップとの差は9分57秒あり、線上となる10分差はほぼ確実な厳しい状況を予測していた。そして、トップをはじめ上位校が次々に棒を繋いでいく中、我が滋賀大五区を託された於久田が苦しい表情を浮かべ中継所に入ってきた。無情にもトップと10分以上の差がついており、線上スタートとなった。六区の後藤は、棒が繋がらなかつた無念さや悔しさを振



り払うかのように駆け出していった。

◆第六中継所
 大津市堅田の第六中継所では、雨の中多くの人が選手の到着を今か今かと待ちわびていた。七区を走る各選手も刻々と近づいてくるのを見て、その時を待っていた。滋賀大の七区は、エースで四回生の中島弘貴。落ち着いた様子で時折笑顔も見せながら自分のレースに備えていた。次々に棒が繋がれていく中、刻々と迫る線上スタートの時間。中島は祈るように棒を待った。

先頭通過から10分が経過し、無情にも線上スタートとなり、後藤は棒を繋げなかつた。だが、後藤は前との開きをものともせず、雨の中苦しみながらも最後まで力強くしっかりと前を向いてぶれない走りをしていった。



◆第七中継所

最後の中継所となるここでも先頭から10分経過で線上スタートとなる運営で、終始緊張した空気が流れていた。不十分なスペースながらもウォーミングアップをする選手の中、アンカーの一回生堀もダッシュを入れるなど自分のペースで調子を上げていた。声を掛けると「ありがとうございます、頑張ります。」と緊張感と共に、アンカーの大役を担う逞しい気概を見せていた。

2011年(平成23年)11月20日(日曜日) 頁 第



七区の途中地点から、「先頭と12分13秒差」の情報が入る中、先頭の京産大が中継所に到着。悔しくも八区に襷を繋ぐことは叶わず線上スタートとなった。

しかし、四回生中島が記録した12分16秒差は途中地点のトップ差と変わらず、京産大エース・野田を相手に互角に渡り合った走りは、びわ湖に挑む集大成の姿であった。

◆フィニッシュ

アンカー堀は、降りしきる雨をもとめせず、線上ランナーが二つの集団に分かれる中、前の集団に入り走った。大雨でコースが水に浸り、凄まじいレースさながらのコースコンディションであった。各大学が雨にめげず熱心な応援を続ける中、堀の到着を今か今かと滋賀大学陸上部の仲間が固唾を飲んで待っていた。

ゴールする他大学の選手を見てみると、とても寒そうで、苦しそ



雨の中を懸命に走る中島選手

常にチームをけん引

滋賀大 4年 中島弘貴選手 22

琵琶湖畔のコースで19日に行われた「びわ湖大学駅伝」の予選会出場した地元・滋賀大産康市でチームのけん引役の4年、中島弘貴選手(22)は、各校のエースがそろった「15・1区」を任せられ、順位を19位から二つ上げる力走を見せた。

今年、目標の「チームで『びわ湖』を走る」を実現するため、練習では常にチームメイトや下級生を引っ張った。夏休みの走り込みで骨盤を痛めたが、10月の予選会では意地を見

「挑戦者として滋賀大の存在を示す」。そう誓って臨んだレースは、区で48分26秒、区間5位でスタートとなったが、「初出場という重圧も心地よかったです。次は最後までタスキがつかけるよう、後輩に夢を託します」。そう言い、仲間と肩をたたき合

(平成23年11月20日 読売新聞より)

兵庫県西宮市出身で、中学3年の時、学校の選抜メンバーとして初めて経験した駅伝に魅せられ、県立西宮高では名門の陸上部に入部。3年時には



びわ湖大学駅伝出場支援基金にご協力を賜り、ありがとうございました！ 部員一同、心より厚く御礼申し上げます。

経済学部と教育学部の両学部陸上競技部OB・OGの皆様から、総額73万960円にのぼる御支援をいただきました。
本戦参加費・運営協力費(50万円)、下の写真の横断幕(1張)・幟旗(50本)の新調費(10万円)の他、宿泊費や旅費の補助として使わせていただきました。御支援、誠にありがとうございました。



うで、レースの激烈さが伝わってくるようであった。みんなとても堀のことを心配していた。そんな中、堀は懸命に走りながらゴールの膳所城跡公園へ入ってきた。心配をよそに堀は立派に走り切った。

ゴール後の顔には、アンカーの務めを果たし終えた安堵の表情が浮かんでいた。



先輩の皆様のお心を体し、一層精進します。
滋賀大学陸上競技部一同

